

MBC ラジオ『ココが聞きたい！ドクタートーク』2025.5.3
第 1148 回放送分『甲状腺疾患』1 回目
ゲスト：中条哲浩ドクター



二見いすず

今月のドクタートークは、「甲状腺疾患」についてお送りいたします。
お話は、鹿児島大学乳腺甲状腺外科 中条哲浩（なかじょう あきひろ）ドクターです。
中条さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

中条哲浩Dr.

よろしくお願ひいたします。

二見いすず

第1週の今日は、甲状腺はどんな役割をしているのか？などについて
まずは教えていただけますか。

中条哲浩Dr.

はい。まず、甲状腺は首の真ん中、喉仏の下にあり、
形でいうと、蝶々が羽を広げたような形をしています。
左側、左の葉っぱと書いて左葉といいますが、この左葉と右側の右葉が、真ん中でつながってて、
気管を取り囲むようにくっついています。
重さが20グラムくらいの臓器です。

二見いすず

はい。

中条哲浩Dr.

甲状腺は食べ物に含まれるヨウ素を材料にして、甲状腺ホルモンをつくり、
保存しています。
そして必要に応じて適切な量を分泌しています。

二見いすず

ホルモンをつくって、保存して、分泌する。

小さな臓器なのに、いろんな働きをしているんですね。

ところで甲状腺ホルモンは、私たちの体の中でどんな役割をしているのでしょうか？

中条哲浩Dr.

甲状腺ホルモンは、体の代謝に関わるホルモンです。

分泌される量が多すぎると、全身の代謝が高くなります。

脈が早くなったり、汗がたくさん出たり、神経が高ぶったりします。

二見いすず

逆に分泌される量が少ないと、どうなるのでしょうか？

中条哲浩Dr.

だるさを感じたり、気力がなくなったり、冷え性になったりします。

そのため、甲状腺ホルモンの量は適正に保たれていることが大切です。

二見いすず

甲状腺の病気にも色々あると思いますが、どのようなものがあるのでしょうか？

中条哲浩Dr.

甲状腺の病気には、今申し上げたホルモンの異常を来すものと、甲状腺そのものにしこりができるものがあります。

そして甲状腺にできるしこりの多くは良性です。

二見いすず

つまり、がんではないということですね？

中条哲浩Dr.

はい。もちろん甲状腺がんやがんになる可能性のある良性腫瘍もありますが、実はがんにはならないコブも多く、これを良性結節と呼んでいます。結節というのは、しこり、コブのことです。

二見いすず

良性結節ですね。この場合は、手術は必要ないのでしょうか？

中条哲浩Dr.

はい。がんではないので基本的に手術は不要です。

ただし、このコブは大きくなります。

3センチをこえると、食事の際、飲み込むときに違和感が出てきます。

もっと大きくなると見た目も気になると思うので、

3、4センチをこえたら患者さんが手術を希望されることが多いです。

二見いすず

検診についても教えていただきたいのですが、
他のがん検診のように毎年1回した方がいいですか？

中条哲浩Dr.

甲状腺のがんは、一部のがんをのぞいてゆっくり進みます。
もちろん早く見つけることに越したことはないですが、
たとえ自覚症状を含めて検診以外の検査などで見つかったから病院に行っても、予後は変わらないので
その点は他の検診と違ってあまり神経質になる必要はないと思います。

二見いすず

よく分かりました。
来週以降は、バセドウ病や甲状腺がんについてお伝えしていきます。
今月は「甲状腺疾患」についてお送りいたします。
お話は、鹿児島大学乳腺甲状腺外科 中条哲浩ドクターでした。
中条さん、ありがとうございました。

中条哲浩Dr.

ありがとうございました。